8. 成果イメージ資料（別添）　※ポンチ絵を別途添付すること

稲沢市内小中学校児童生徒　３２校

稲沢市教育委員会

委嘱

現状

〇日本語指導が必要な児童生徒の増加

（R1:123 人 → R6:152 人）

〇日本語がほとんど話せない児童生徒の転入

（R6:ポルトガル語 2 人、タガログ語 5 人、ベトナム語 1 人、中国語 1 人）

稲沢市日本語教育推進委員会

年３回開催し、情報交換、教材等の共有、研修会等を実施し、稲沢市の小中学校における日本語教育推進体制の整備を進める。

派遣　報告

稲沢市日本語初期指導教室

稲沢市内小中学校に日本語がほとんど話せない児童生徒が入学した際、本人と保護者の同意の上、授業を一定期間（45 分×20 回分）取り出して、日本の学校や家庭での生活習慣や最低限必要な日本語についての指導を行う。

語学支援員（ポルトガル語１名、タガログ語１名、中国語１名、ベトナム語１名　韓国語１名）派遣

【8 件の申請（内 4 件対応）】

日本語教員加配校　５校

稲沢市内の外国人児童生徒等の集住地域の学校では、児童生徒の日本語の習得状況に合わせて、入り込み指導、取り出し指導等を実施する。また、散在地域の学校に対しては、対象の児童生徒に対して他校通級による日本語指導の実施を検討する。

稲沢市日本語教育指導者研修会

年２回日本語教育に関わる教職員を対象に対する研修会を実施。

（研修会参加人数 45 名）

還流

その他の学校　２７校

初期　日本語指導

特別の教育課程による指導（別室で取り出し指導）

中期～　日本語指導　在籍学級での指導（入り込み指導）

中期～　日本語指導

特別の教育課程による指導（別室で取り出し指導）

稲沢市語学指導助手の配置　ポルトガル語１名　タガログ語１名

ポルトガル語、タガログ語による児童生徒への日本語指導の補助および保護者との通訳や配布文書の翻訳を行う。

課題

〇児童生徒に必要な日本語指導を実施するための人的不足。

〇推進委員会の蓄積したノウハウの共有方法が確立していない。

〇学校間で日本語教育に対する温度差がある。

〇日本語がわからないため登校できなくなる児童生徒がいる。

〇特に散在地域の学校では、保護者と十分な意思疎通ができない。

成果イメージ

〇受け入れから卒業まで、十分な環境のもと必要な日本語指導実施することができる。

〇散在地域の学校においても、日本語がほとんど話せない児童生徒が転入した場合、ノウハウを活用して対応することができる。

〇日本語でのコミュニケーションができるようになることで、登校への不安を解消することができる。

〇保護者の協力を得ることができる。

稲沢市内小中学校保護者